

広報

もり 中部の森林



私の森語り「木曾路はすべて山の中、そこに長く息づく人々の暮らし、そして何より笑顔を大切にしたい」
一般社団法人木曾人 理事長 山田 弘

写真：天生国有林木道補修資材の歩荷
(飛騨署グリーンサポートスタッフ(天生)撮影)

特集

- ・夏のお薦め国有林

シリーズ

- ・各地からの便り、森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2024/No.245



高山植物の女王 コマクサ

林野庁では、広く森林に親しんでいただけるよう森林浴や自然観察等に適した国有林を「レクリエーションの森」として選定しています。この中で、特に景観の優れた場所を「日本美しの森お薦め国有林」としています。今回これらの中から、夏にお薦めの六箇所を紹介します。

レクリエーションの森へ行ってみよう
夏のお薦め国有林

降り注ぐ陽光が川底の石に反射して生み出される神秘的な色合いは「阿寺ブルー」と呼ばれ、訪れる人を魅了します。エメラルドグリーンが深みを増すいくつもの「淵」の透明度はその深さを忘れるほどです。渓谷には遊歩道が整備され、その途中にある吊り橋からも渓谷美を楽しむことができます。【木曽森林管理署南木曽支署】



「阿寺ブルー」と呼ばれる神秘的な色が続く阿寺渓谷

神秘的な川の色に誘われて
阿寺風致探勝林(長野県大桑村)



赤沢自然休養林内の散策コースと森林鉄道

森林浴発祥の地として知られ、三〇〇年を超えるヒノキの大樹をめぐる八つの散策コースが設定されています。溪流沿いには、車椅子でも散策可能なバリアフリーのコースもあります。また、森林鉄道に乗車することもでき、夏には森林と溪流からの涼やかな風と景色を楽しむこともできます。【木曽森林管理署】

森林浴発祥の地
赤沢自然休養林(長野県上松町)

ゴンドラとロープウェーを乗り継いで降り立つと、標高一、九〇〇㍎に位置する国内有数の高層湿原が広がります。園内には約五・五キロメートルの遊歩道が整備されており、雄大な北アルプスを背景に咲く高山植物を眺めながら気軽にトレッキングを楽しむことができます。【中信森林管理署】



ニッコウキスゲとワタスゲの咲く柵池湿原

ゴンドラで行く高層湿原
柵池湿原風致探勝林
(長野県小谷村・白馬村)



青空とのコントラストが美しい千畳敷カール

ロープウエーに乗り一気に標高二、六〇〇メートルまで登ると、目の前に千畳敷カールが広がります。夏にはチングルマやコバイケイソウなど多くの高山植物が咲くお花畑となります。カール内は四十〜五十分で一周することが出来ます。稜線まで足を延ばすと、曇った日にはライチョウに出会えるかもしれません。【南信森林管理署】

氷河が作った千畳敷カールへ
駒ヶ岳風致探勝林
(長野県駒ヶ根市・宮田村)

※表紙及び三ページ関連記事

【飛騨森林管理署】

標高一、四〇〇メートルに広がる面積約三ヘクタールの天生湿原は、希少なホロムイソウが自生するほか、八月にはシラヒゲソウやエゾリンドウなどが咲きます。付近を通る歩道には「カツラ門」と呼ばれるカツラの巨木群が目を楽しませてくれるほか、ブナの巨木も見られます。



湿原の散策者を出迎えるように立つカツラの巨木群

高層湿原で巨木に出会う
天生自然観察教育林(岐阜県飛騨市)



池の平湿原内にある鏡池

標高二、〇〇〇メートルに位置する池の平湿原は、浅間山の噴火によって形成されました。この周辺は太平洋気候と日本海気候が入り混じる地帯のため、低山の植物から高山帯の植物まで多くの種類の花が咲く「花高原」として知られています。また、湿原内の鏡池へは、池の平駐車場からゆつくり歩いて十五分(約九〇〇メートル)で到着できます。【東信森林管理署】

高層湿原の風に涼を感じる
湯の丸・高峰自然休養林
(長野県東御市・小諸市)

・森林散策などは、自己責任が原則となります。お出かけの際には、歩きやすい服装や靴を身に着け、天候などに十分注意しましょう。
・樹木を傷つけたり、植物を持ち出したりしないようにしましょう。



ライチョウに出会った際はそっと見守ってください

安全で楽しく過ごすために

中部局管内のお薦め
国有林はこちら↓



**植生維持と回復を目指し、
二つの湿原に獣害対策の
電気柵を設置**



【飛騨森林管理署】

五月二十日、飛騨市河合町の
あもつ 天生国有林内に所在する天生湿原
において、獣害対策用の電気柵設
置作業を、飛騨市及び天生県立自
然公園協議会と共同して実施しま
した。



天生湿原で雨の中設置作業を行う参加者

天生湿原は標高約一、四〇〇に
に広がる約三ハの 高層湿原で、湿
原の周囲はレクリエーションの森
「天生自然観察教育林」に設定して

います。ミズバシヨウやニッコウ
キスゲなど、湿原を代表する植物
が春から初秋にかけて観察できる
ことに加え、世界遺産白川郷に近
いことから、近年、訪れる方が増
えています。一方、最近はいノシ
シによる掘り返しなどが目立つこ
とから、その対策として、毎年こ
の時期に電気柵を設置し被害の軽
減を図っています。

午前中は雨が降る生憎の天候で
したが、参加者は濡れて滑りやす
くなった斜面で足元に注意しなが
ら懸命に作業に取り組んでいまし
た。午後には天候も回復、太陽に
照らされ鮮やかさを増した新緑
と、見頃を迎えたミズバシヨウに
囲まれる中で作業は順調に進み、
ほぼ予定どおり設置作業が完了し
ました。

また、六月九日には高山市
しよみかわ 庄川町の 山中 山
やまなかやま 庄 中山 国
有林の 山中 峠
(標高一、三七五ト) 付近に広がる
約二ハの湿原においても、高山市
及び地域の有志や岐阜大学の学生
等とともに電気柵の設置作業を行
いました。

ここのミズバシヨウは、自生地



山中峠の湿原で設置作業を行う学生と地元有志

としては日本における分布の南限
にあたり、県の天然記念物にも指
定されていますが、天生湿原と同
様にいノシシやニホンジカによる
湿地の掘り返しや採食の被害が拡
大したため、十年ほど前から関係
者が協力して毎年電気柵を設置し
ています。

また、この箇所は岐阜大学応用
生物科学部の安藤准教授を中心
に、被害を受けたミズバシヨウ群
生地の回復に向けた観察と、人工
移植の研究が続けられており、作



作業時に見ごろを迎えた天生湿原のミズバシヨウ

業終了後は、大学生とともに移植
したミズバシヨウの観察を行いま
した。
安藤准教授から、地元小学生が
種から育て、当地に移植したミズ
バシヨウの開花が今年初めて確認
されたとの報告もあり、取り組み
の成果を目にみえる形で得ること
ができました。
当署では両湿原をはじめとし
て、希少植生などの保護に向けて、
関係者と連携しながら取り組んで
まいります。



剣ヶ峰付近での作業の様子

**御嶽山開山に向けた
登山道整備を実施**

【木曾森林管理署】

七月二日、長野県王滝村の御嶽山王滝口登山道において毎年恒例の登山道整備が行われました。

今年は二十回目となりますが、今回の整備は、王滝口から王滝頂上、剣ヶ峰までの入山規制緩和に向けて行われたものです。整備には地元企業や山の関係者からなる木曾御嶽奉仕会の会員をはじめ、県、村、当署職員など約九十名が

参加し、汗を流しました。

登山道入口にあたる田の原駐車場付近では、排水溝にたまった砂泥の除去作業や登山道脇にある笹や雑草の刈払いが、九合目から剣ヶ峰にかけては、登山道脇の安全ロープの張り直しや案内看板の設置等が行われました。あわせて、登山者の安全確保のために、王滝村の非常用無線の試験も行われました。

参加者からは、「御嶽山に来たのは今回が初めてで、景色もよく楽しみながら清掃や整備をすることができた。」などの声が聞かれました。

また、同日に、木曾町三岳の黒沢口登山道においても、約四十名が参加し、同様の登山道整備が行われました。

御嶽山は日本百名山のひとつとなっており、独立峰としては富士山に次ぐ高さ(三、〇六七メートル)です。皆さんもぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

なお、登山の際には、最新の火山観測データや立入規制情報等を確認するようにしてください。

**八島ヶ原湿原で
外来植物ヒメジョオンを除去**

【南信森林管理署】

梅雨空となった七月十日、「八島高原を美しくする会」の主催による、外来植物ヒメジョオンの除去活動が、下諏訪町内東俣国営林の八島ヶ原湿原で行われ、下諏訪町や長野県関係者、当署職員など、総勢約二十名が参加しました。

ヒメジョオンは繁殖力が非常に強く、在来植物の生育に影響を与えることが危惧されており、外来生物法の要注意外来生物に指定されています。除去作業に先立ち、下諏訪町よりヒメジョオンの花の構造や除去の際の注意点などについて説明を受けた後、湿原の木道沿いや駐車場周辺で成長したヒメジョオンを除去しました。

参加者は、花やつぼみの状態のヒメジョオンを見つけると、はさみ等で根本付近から切断し、拡散しないよう注意して袋に入れていきました。回収したヒメジョオンは堆肥化し利用されます。

事務局の下諏訪町によると、毎



八島ヶ原湿原でのヒメジョオン除去活動に参加する関係者

年の除去活動により、以前よりヒメジョオンの数は少なくなってきたとのことですが、完全に除去することの難しさを実感しました。

八島ヶ原湿原の貴重な自然を守るためにも、今後とも関係者と連携し、外来植物除去活動に取り組んでまいります。



ヒノキ間伐展示林で検討を行う森林文化アカデミーの学生達 (小川長洞国有林)

岐阜県立森林文化アカデミーの
国有林実習で展示林等を案内

【森林技術・支援センター、
岐阜森林管理署】

六月二十五日、岐阜県立森林文化アカデミーエンジニア科二年の、学生十五名が、岐阜署管内の乗政及び小川長洞国有林で現地実習を行いました。

樹齢が一〇〇年を超える乗政国有林の「ヒノキ長伐期施業林」では、八年前の平成二十八年に間伐が実施されており、学生達は間伐後の地表の植生や枝の広がり方などを確認しながら今後の施業方法を検討し、「部分的に立木密度の高い箇所があるので間伐を行う」「二〇三〇年生まで待つて皆伐を行う。その後の植栽は、木材需給も考慮してヒノキ以外の植栽樹種も検討する」等の実践的な意見が出されました。

異なる間伐率の試験地が配置された小川長洞国有林の「ヒノキ間伐展示林」では、間伐の効果やプロット毎の成長の優劣や木の混み具合、今後の伐採方法等について、



ヒノキ長伐期施業林の見学状況 (乗政国有林)

専攻分野に応じた意見交換を行いました。その後、当センターから、伐採した木の年輪調査による間伐後の成長の違いに関する研究成果や、現在は木が混み合う状態になっているため間伐が必要になることなど、今後の施業方針を説明しました。最後に、民有林ではあまり見ることができないコウヤマキ等の温帯性針葉樹の天然林を見学し、実習を終えました。

今後、学校等からの要請に応じ、技術支援や情報提供を行ってまいります。

千曲市立五加小学校五年生が
端材クラフトとイス作りを体験



【技術普及課】

七月八日、長野県千曲市の「大池自然の家」において、同市立五加小学校五年生の児童六十名を対象に、木工体験を実施しました。これは、体験学習授業の一環として、野外活動で森について学び、木材と触れ合う機会を設けたいという小学校からの要望に応え、中部森林管理局が協力して実施したものです。

はじめに、国有林や国産材利用について説明を行い、その後、クラスごとに「端材クラフト」と「イス作り」を交替で実施しました。クラフトでは、「森づくりの途中で伐採されて捨てられる木材を、みんなが使うことで、キャンプの思い出になる作品に変身させよう」と伝えると、思い思いに製作を楽しんでいました。

イス作りでは、材料が国産のスギ材であることを説明し、「なぜ伐った後にまた木を植える必要があるのか？」と問いかけたところ、



キャンプの思い出となる作品を製作する子どもたち

「森林は生き物のすみかだから」「山が崩れることを防ぐため」といった声が続々にあがり、森林の多面的機能への理解が子どもたちにも浸透していることを実感しました。

限られた時間の中で子どもたちは、板が浮かないよう小さな手で押さえながらネジを一生懸命に締め、完成後は嬉しそうに座り心地を確かめていました。

今後、イベントや森林教室、木工製作などの様々な機会を捉えて、多くの方々に森林づくりや木材利用の大切さを普及するためにサポートしてまいります。



白鳥貯木場について説明を受ける学生

林業、木材産業の歴史を学ぶ

【名古屋事務所】

七月九日、事務所に隣接する名古屋学院大学で社会学を学ぶ二年生十二名が、当所併設の「熱田白鳥の歴史館」に来館しました。

はじめに、大学の白鳥キャンパスを含む一帯は江戸時代から貯木場であったことを説明した後、木曾地域で伐採された木材が木曾川を使って運び出される様子などのビデオ上映を行いました。

学生からは、水中貯木を行うメソッド、木曾で林業が発展した理



中水門を見学する徳川林政史研究所の研究生

由、木造建築の耐久性等、予定時間を超えて熱心に多くの質問が出され、林業や木材産業に対する関心の深さがうかがえました。

また、七月十二日には、(公財)徳川黎明会に所属する徳川林政史研究所の職員と研究生が歴史館を訪れました。木材取引発祥の地とされる白鳥貯木場は尾張徳川藩と関わりが深く、同藩藩領であった木曾地域の林業や、名古屋城築城の際に造られた堀川などの歴史とあわせて当所から説明を受けた後、堀川と貯木場を繋ぐ中水門、太夫堀を見学しました。



新しい説明看板を設置する様子

【東濃森林管理署】
七月十一日、当署管内の加子母裏木曾国有林(中津川市加子母)において、「NPOつげち」「裏木曾古事の森育成協議会」の呼びかけによる初代大ヒノキ歩道整備ボランティア活動が行われました。
当日は雨模様となりましたが、恵那県事務所、中津川市、まちづくり協議会、区長会などから総勢三十五名が参集し作業を行いました。
見学コースの歩道は六十年以上

初代大ヒノキ歩道
見学コース整備完成！

午後は当署の会議室へ場所を移し、初代大ヒノキに係る今昔物語、大ヒノキまでの道中の見どころや、この地域の森林・林業の歴史に関する解説などを行い、参加者の皆さまに、中津川市加子母・付知地区の新たな魅力の発信者となっていたくようお願ひし、学

前に作られ、総延長一、一〇〇メートルに及びますが、幸いにも歩道自体に大きな損傷等は見られず、作業は主にコース案内看板の設置と、朽ちた丸太橋の架け替え、転石の除去となりました。参加者は六班に分かれ、各担当区域で手際よく作業し、午前中に整備を終えることができました。



丸太橋架け替えの様子



会議室での学習会の様子

習会を終えました。
参加者からは「地元にながら、こんな奥山へは初めて入った。素晴らしい経験ができた」「知らなかったことが沢山学べた」など多くの感想を聞くことができました。
今回整備した歩道は、八月四日に中津川市、恵那農林事務所、東濃森林管理署が主催して開催される山の日イベント「なかつがわ山の日サンデー」を皮切りに、今後多くの皆さまに利用していただけるものと期待しています。

東濃森林管理署の初代大ヒノキ(切り株)と二代目大ヒノキ

〈初代大ヒノキ〉

江戸時代後期、焼失した江戸城再建のために幕府から派遣された役人により「ご神木」とされた木曾山随一の大檜が由来とされています。昭和9年の室戸台風で折れてしまい、昭和29年に学術参考のため伐採されました。切り株の直径は約2.2m、断面は畳3畳ほどの広さがあります。

〈二代目大ヒノキ〉

初代大ヒノキと肩をならべるような巨木は簡単には見つからず、昭和56年によやく発見されました。樹齢は推定1,000年、幹回り4.84m、高さ26mとされています。発見されたのは、偶然にも、初代大ヒノキと谷をはさんで向かい側のほぼ同じ標高の場所でした。

「木曾森林管理署」
 木曾カラマツの活用へ
 生産拡大へ戦略会議を発足

【木曾森林管理署】

七月十九日、長野県木曾町役場において、利用期を迎えた木曾地域のカラマツの生産拡大、流通体制の整備、地域内での高付加価値化を目指す「木曾カラマツ活用戦略会議」が開催され、木曾町長（木曾森林組合長兼務）、木祖村長、王滝村長、木曾官材市売協同組合、木曾木材工業協同組合、木曾地域振興局長及び当署署長など民国の関係者が出席しました。

この戦略会議は、民国連携による従来の「木曾谷流域森林整備推進協議会」をより実効性のあるものとするため、①情報発信、②カラマツ活用、③ヒノキ活用を図る新規プロジェクトの一つとして位置づけられるものです。今年度は、木曾カラマツ戦略方針を策定し、関係者の合意形成・認識共有を図ることとしています。

今回の戦略会議では、五月にノースジャパン素材流通協同組合



木曾カラマツ活用戦略会議の様子

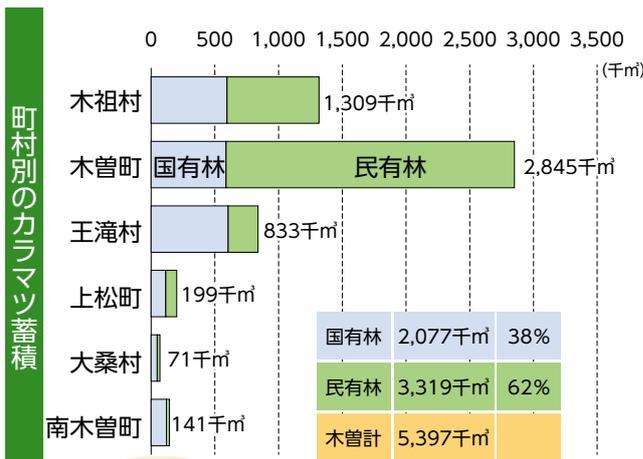
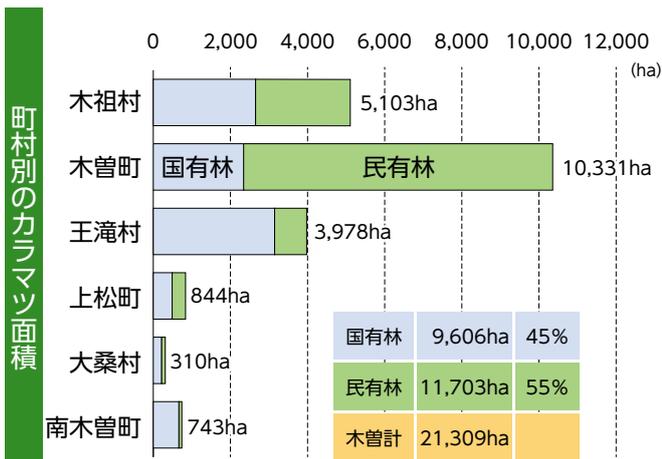
鈴木理事長を招いて行われた勉強会やカラマツ先進地の岩手県への視察結果を踏まえ「カラマツ材を普通に使用することへ認識を改める」等、木曾カラマツへの期待を込めた前向きな意見が多く出されました。

木曾谷流域の人工林はヒノキの次にカラマツの蓄積が多く、特に北部三町村（木曾町・木祖村・王滝村）を中心に、約二万^{トン}に約五四〇万立方^{メートル}の蓄積を有する優良なカラマツの産地でもあります。（下図参照）。



民国連携事業の一環として活用している藪原土場に集積されたカラマツ

今後、戦略会議は四半期に一度のペースで開催し、①カラマツ材の生産拡大、②カラマツ材の安定供給（民国連携システム販売の推進、新たな中間土場の整備）、③地域内での高付加価値化（木曾町の木の産業づくり事業の支援など）を柱に、木曾のカラマツ活用の具体の戦略方針を検討していくこととしています。





協定書へサインする関係者

【飛騨森林管理署】

七月二十五日、飛騨森林管理署は、名古屋林業土木協会の久々野高山・古川・神岡・荘川各支部及

災害の兆候をすばやく伝える
「国有林みま森たい」協定を締結

び名古屋造林素材生産事業協会と、山地災害の兆候等の情報伝達に関する協定「国有林見守り隊（みま森たい）協定」を締結しました。

集中豪雨や台風等により大きな災害が発生した場合には、「中部森林管理局における国有林防災ボランティア制度」に関する協定に基づいて情報収集等の協力をいただいています。今回の協定はこれを補完するためのものです。

当署が管轄する国有林の面積は、中部局管内で最も大きく（約十二万^{ふた}畝）、奥地で発生した山地災害や、森林や河川の変化、林道の状況等を把握するためには、多くの時間と手間が必要となります。一方、近年、温暖化などの影響により、局地的な豪雨の発生が増加傾向にあり、これに伴い山地災害の増加が懸念されますが、前述したとおり、豪雨等による状況の変化をすべて迅速に把握することは困難となります。

このため、日頃より管内の国有林で森林整備や森林土木事業などを実施している事業者の皆さまから、森林や河川の異変など、災害



サインした協定書を手にする関係者（中央は飛騨森林管理署長）

の兆候などを把握した場合には、いち早く状況をお知らせいただけよう、事業者との意見交換を経て本協定を締結するに至りました。

今後も関係事業者等の協力を得ながら、管内の国有林を管理し、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。

〈飛騨森林管理署の国有林は面積が大きいだけでなく、所在地も広く分散しています〉

飛騨森林管理署が管轄する国有林は約12万haと広大ですが、その所在地は飛騨署管内の2市1村（飛騨市、高山市、大野郡白川村）に広く分散しています。各地の地名などから付けられた国有林の名称は、林道などを除いて120以上あり、こちらも中部局管内で最も多くなっています。これらのうち、読み方の難しい国有林名をいくつか紹介します。

阿多粕	アタガス	蓼之俣谷	タデノマタタニ
大雨見	オオアマミ	丁子口	チョウジグチ
尾上郷	オガミゴウ	寺附	テラヅキ
折敷地	オシキジ	鈍引沢	ドンビキザワ
帰雲	カエリグモ	馬狩	マガリ
柏当	カシアテ	孫十郎尾	マゴジウロウ
上小鳥	カミオドリ	万波	マンナミ
切雲	キリモ	無数河	ムスゴウ
三方崩	サンボウクスレ	六廐川	ムマイガワ
千間樽	センゲンダル	森茂	モリモ

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第40回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「裏木曾」その四 斧による伐採

長野県側の「木曾」と同様に、「裏木曾」においても木の伐採には主に斧（ヨキ）のみが用いられていました（大正時代初め頃まで）。



「付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解」より
“伐採”（明治末頃の伐採のイメージ）

斧を用いた伐採は大きな音が出ますので、江戸時代に木曾・裏木曾地域を領していた尾張藩がわざと斧を使わせないという説もあります。しかし江戸時代頃の鋸の性能も決して良いものではありませんでしたので、斧での伐採が鋸よりも効率の悪いものであったというわけではありません。

特に太い木を伐る場合には三方向から斧で空洞を空けてから伐採する「三ツ緒伐り」（木曾

大正時代、裏木曾での神宮（伊勢）の式年遷宮関連行事で伐採される大樹（おそらく現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林）。大正時代の「三ツ緒伐り」の様子を見ることが出来る。



昭和二十年代頃、現在の東濃森林管理署加子母裏木曾国有林での斧による大材伐採の様子



では「三ツ紐伐り」と呼ばれる方法が取られました。この技法は「三ツ伐り」「台伐り」「鼎伐り」といった様々な呼称もあり、「三ツ緒伐り」の名も定着したのは比較的近年のことではないかという説もあります。

大正時代頃からは鋸も組み合わされるようになり、昭和三十年代にはチェーンソーが伐採の主役となっていきます。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。
当サイトへは、コードを読み込んでください。





長良川と金華山国有林

シリーズ

森林官からの便り

【岐阜森林管理署

岐阜森林事務所】

地域統括森林官 奥田 学

岐阜森林事務所は、岐阜市の中心部に位置する金華山のふもとの岐阜公園に隣接し、岐阜市、関市、美濃市、山県市に所在する国有林一、二四六ハルを管理しています。

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

今回紹介する金華山国有林

(二九八ハル)は、日本三大清流の一つであり鶴飼で有名な長良川と一体となった風景美を引き出す背景林の役割を果たしています。山頂には岐阜市のシンボルとなっている岐阜城がそびえ、アラカシ、ツブラジイなどの常緑広葉樹のほか、ヒノキ、マツ等の常緑針葉樹が混生し、豊かな自然景観が見られます。また、昆虫や野鳥も数多く見られ、自然観察や散策等に適しており、特に優れたレクリエーションの森であるとして「日本美しの森お薦め国有林」に指定されています。ふもとから山頂まではロープウェイや遊歩道などが整備され、多くの市民や観光客に親しまれています。

この貴重な森林生態系などを保全するため、歩道などの巡視やマナーの啓発活動を積極的にを行っています。また、地元の学校が行う森林環境教育やボランティア等に



森林教室の様子

よる森林づくり活動の場としてフィールドを提供したり、こうした活動に参加するなどの協力も行っています。

このほか、金華山周辺でイノシシの目撃情報などが多く寄せられることから、岐阜大学や岐阜市などと「岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会」を設立し、地域と連携して森林パトロールや

登山者等への注意喚起、藪の刈払いなどにも取り組んでいます。

■未来の担い手へのメッセージ

私がこの職場に入ってから四十年近くになりますが、その頃に植えられた木を伐採するのはまだまだ先の話です。

森林は長い年月をかけて育てていくものであり、責任ある仕事です。国民の期待に応えられるよう、未来を担うみなさんに国有林の森林づくりを引き継いでほしいと願っています。



インターンシップの生徒とともに



シリーズ

「私の森語り」

せりふた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介いたします。

「木曽路はすべて山の中、
そこに長く息づく人々の暮らし、
そして何より笑顔を大切にしたい」



一般社団法人木曽人
理事長
山田 弘

■自己紹介

弊社は、木曽の木材、観光、製造等各産業を支えてきた人々の生き様、笑顔を発信し、木曽地域を活性化することを目的とし、社名にも木曽の人々への思いを込めています。

■活動内容

フリーペーパーの発刊、FMラジオの検討、様々なイベントの仕掛けと運営、ネットによる情報発信など夢いっぱい大風呂敷を拡げて活動を開始し、今年で十年目

を迎えます。お陰様でフリーペーパー「木曽人」の地域での認知度も上がり、今年九月には四十号発行となります。

■もう一つ

の事業として、廃業したドライブインの営業施設のテラスからは、日本遺産、国定公園に指定されている「寢覚の床」を眺めることができ、全盛期には年間五十万人が訪れ、木曽観光の中心



ねぞめ亭 (外観)



フリーペーパー 木曽人



テラスから望む「寢覚の床」

地、ハブとして地域の発展に貢献してきました。しかし、御嶽山の噴火、大型バスの相次ぐ事故、道の駅開業などの影響を受けて来訪者が激減し、更にオーナーが病に伏したため、十一年前に閉館しました。その当時、「日本一観光客の減った町」という不名誉な烙印を押されてしまい、このままでは町の、そして木曽の観光、産業の危機だと感じ、施設を「ねぞめ亭」と命名して運営に乗り出しました。しかし一度減ったお客様の獲得は厳しく、今なお猛威を振るっているコロナにより、苦しい経営状況が続いています。

■メッセージ

現在もこれからも、官民一体となってこの観光施設を中心に活動・情報発信を続けながら、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林、御嶽山、木曽駒ヶ岳など近隣町村の観光スポットへの誘客、送客を担ってまいります。

「木の国木曽」を町内外に、そして国内外に届くように、また、木曽がさらに活性化する一助になるよう発信し続けてまいります。

最後に、木曽では、二十年に一度の一大イベントとして、二〇二五年六月に上松町で「伊勢神宮御杣始祭」、木曽郡全体で盛り上げる「ご神木祭」が開催されます。併せて発信していきまので、どうぞ木曽へお越しください。

■連絡先

長野県木曽郡上松町
小川寢覚二四〇九
一般社団法人木曽人



豪雪地に生きるスギ天然林

かざくさき
風吹スギ遺伝資源希少個体群保護林

設定目的

長野県小谷村おたりむらに原生状態で生育しており、我が国有数の豪雪地帯にまともって生育するスギ天然林は希少であることから、遺伝資源としてスギの個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

小谷村の姫川へ流れ込む沢の上流部、南向き斜面に位置します。スギを主体とし、ブナ、カエデ等が混交する天然林が分布しています。

所在地
長野県北安曇郡小谷村



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

国有林モニターのご紹介



糸木 浩之
(長野県)

◇自PR

元々は東京都の出身ですが、縁あって二〇〇六年から十四年間沖縄県の石垣島に居住しておりました。

二〇二〇年からは、信州松本に居を移し現在に至っております。

西には北アルプス、東には美ヶ原高原を望み、美味しい「水」にも恵まれ幸せな生活を送っています。

◇国有林モニターに応募した理由

この美味しい「水」は松本平を取り囲む山々が生みの親ではないか？との素朴な疑問から、自然環境に興味を持ち始めました。

自然環境としての対象が「山」であり「樹木」となり、今回の国有林モニターへ応募した次第です。

◇国有林に期待すること

現在、長野県自然保護レンジャーとして自然公園などを巡回し、利用者に対し適切な利用や動植物の保護等のマナー啓発活動も行っています。

国有林については、個人的に「針葉樹が多い」「薄暗い」「有効活用されていない」「人の出入りがない」といったイメージを持っています。このイメージを少しでも払拭することができれば…と考えています。有効活用という点では、住宅用材や薪材、キノコ・山菜の採取などが思い浮かびます。また、散策コースなどを増やして森林浴などを楽しむ場が多くなればいいと感じています。モニター活動を通じて国有林について理解を深めたいと思います。

(写真…霧ヶ峰高原車山山頂にて)



デジタル森林紀行へ
ご来訪ください

デジタル森林紀行（デジ森）では、森林が織りなす美しい風景を、ご自宅でもご覧になれるよう紹介しています。風景の色をテーマに、写真を「青」「緑」「黄」「白」の四つに分類して掲載していますので、お気に入りの風景を見つけてお楽しみください。

デジ森はこちらから↓



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

暑い日が続きます。最高気温が35℃以上の日を指す「猛暑日」は、17年前の2007年から気象の用語として使われるようになったそうです。

気象庁の発表によると、日本の7月の平均気温は、統計を開始した1898年以降最高を記録し、過去30年間の平均値より2.16℃も高くなりました。単純に標高換算すると約350m高い地点の気温がこれまでの平均値に近いこととなります。なお平均値算出には、都市化による影響が比較的小さく、地域的に偏りなく分布するよう選定された全国15地点の観測値を用いています。このうち2地点は中部局管内にあり、富山県の伏木、長野県の飯田が選定されています。都市化の影響を受ける場所の平均気温はさらに高いことでしょう。みなさま、どうぞご自愛ください。

「とっていいのは写真だけ。持って帰るのはゴミと思い出。」どこかで聞いたり、言われた記憶はないでしょうか。今後も変わることはない大切な言葉だと思います。また、誰もがスマホで気軽にいつでもどこでも撮影できますが、その際には自分の足の位置にも気を配りたいものです。

New! 複合経営化支援保証のご案内

①造林・育林、②素材生産、③木材・木製品製造、④林業種苗生産、⑤薪炭生産、⑥きのこ生産、⑦木材卸売、⑧木材製品利用のうち、いずれかの事業を3期以上営んでいる方が当該事業とは異なる事業を新たに複合して経営する場合にご利用いただけます。

最大5年間保証料免除ができるため、複合経営をお考えの方の**負担を最小限に抑えることが可能**です。

素材生産業を営む方が造林・育林業と一体的に取り組みられるケースなどにもご利用いただけます。
※融資及び保証については一定の審査をさせていただきます。

ご利用対象者	上記①～⑧のいずれかを営む方		※諸条件がございますのでお問い合わせください。
保証限度額	最大6億円（他の保証分も含む）	保証期間	運転資金：7年以内 設備資金：15年以内
返済方法	一括返済／分割返済	保証料	免除（最大で5年間）
貸付利率	金融機関所定の利率	貸付方式	手形貸付／証書貸付
保証人・担保	ご利用条件により連帯保証人や担保が必要となる場合があります。		出資金 保証額に応じた出資金が必要です。（完済後、ご請求により払戻します。）
申込窓口	お近くの金融機関へ直接お申込みください。 取扱い金融機関： https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/jigyousya/default202306061010.html		
相談窓口	独立行政法人農林漁業信用基金 林業信用保証管理部／林業信用保証業務部 電話：03-3434-7825（地方公共団体又は事業者の方） ／03-3434-7826、7827（融資機関又は保証ご利用の方） URL： https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/index.html		

お気軽にご相談ください。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曾支署	〒399-5301	長野県木曾郡南木曾町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
 編集：総務課 広報
 〒380-8575 長野県長野市栗田715-5
 電話：026-236-2531
 Mail：migoro@maff.go.jp
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
 （毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
 登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。